

～第6次二宮町総合計画策定に向けて～

# 10年後への町トーク（ワークショップ）

二宮町の「現在」と「未来」を考える

【第1回記録】

日時：令和3年10月9日（土）14:00～16:15  
テーマ：【子育て・教育】【産業・経済】

## 《テーマ》 子育て・教育

### 【課題①】 子どもを産み、育てたいと思えるまちづくりのために

→少子化とそれに伴う人口の減少は、町の未来に大きな影響を及ぼす重要な問題です。この町で子どもを産み、育てたいと思えるまちづくりを進めていくために、どのような取組みが必要でしょうか。

### 【課題②】 子どもたちの心身の健康と「生きる力」を育むために

→町内小中学校における児童・生徒数は年々減少しています。そのような中、子どもたち一人ひとりが、個性を伸ばす質の高い教育を受けることができるよう、町では特色ある学校教育の推進に取り組んでいます。今後、子どもたちの心身の健康や「生きる力」を育てていくために、どのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
財政面での支援	◎安心と希望の持てる安定した子育て環境のための財政的支援の充実。(医療、出産、育児サポートなど) ○子育てに関する金銭面での支援。 ・医療はすでに無料化されている。 ・出産に関する費用の無料化、出産育児一時金の前払い ・幼稚園、保育園の無料化、小・中学校の給食無料化 など
子育てにお金がかからない仕組み	○妊娠時から18歳になるまで、食費、教育費、医療費がかからない仕組みづくり。(ex. 町独自のこども保険) ○町内レストランでの食事の無料化。
安心して子育てができる環境・施設づくり	◎多様なニーズに対応できる、町民に寄り添った町づくり。 ◎「安心」と「希望」の持てる町。(医療・育児、託児所・学童) ○子連れで働ける職場環境を町のスタンダードに。 ◎「子育て110番」の開設。 ◎子育て事情のニーズ変化を捉え、多様な情報ツールを活用して、対話の機会を増やすなど、情報を取りに行きづらい人への情報提供方法を工夫する。 ○妊娠中から頼れるパートナーの存在。(相談したいときに相談できる) ○子どもが産める病院。(助産師、小児科、夜間対応) ◎安定した子育て環境づくり(託児所、学童など) ○子どもが自由に遊べる家が町中に点在。(自宅から10分以内、遊びにお金がかからない。) ○ラディアン周辺(またはラディアン内)にカフェ等、ゆっくり過ごせる場所を。 ◎自然の中で遊べる場をもっと増やす。 ○土日祝日や雨天時も利用できる屋内型公園(遊具施設)を。(ex. 小田原市のマロニエ、平塚市の公民館など) →共働きの子育て世代は急増しており、子どもたちの体力増進やストレス発散の場が必要。予約制の町立体育館は幼児や小学生利用は困難。 →温暖化の影響で、雨天が増加、熱中症が心配される気温など、外で遊べる日が少なくなっている。 →これらの施設は、自然災害時の避難所としても利用可能。
特色ある子育て・教育環境のPR	◎子育て世代に注目される情報サイト「にのみやLIFE」を活用し、町の生活におけるメリット(空き家情報など)をわかりやすく発信する。(→現在の「町を知る」リンクのサイトは親切でない。)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎町の魅力を掘り起こすとともに、これらの魅力の見える化に努める。そのためには、町民が町に誇りと愛着を持つことが大切である。</li> <li>◎全ての子育て世代が手軽に情報提供できる仕組みをつくとともに、情報技術を活用し、町が簡単に分析できるようにすることから始める。</li> <li>◎色々な「ところ」に、色々な「まなびの場」がある。子育てにふさわしい自然環境を保全し、活用する。</li> <li>◎これまでにない新しい多様な教育の形。学校の再編。</li> <li>◎海あり、山ありの自然の中で子育てできる良好な環境をこれまで以上にアピールする。</li> <li>◎海あり、山ありの環境にある二宮町の特徴を活かし、自然の豊かさを子育て・教育を通して意識できると良い。</li> <li>◎野山や海で遊ぶ機会を大切にする。</li> <li>◎農業体験を通した学びの場。</li> </ul>
交通・安全面での配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○駅周辺の商店街を通行するバスや自動車、自転車に対する交通安全の確保。(→北口商店街は道路が狭い中、大型バスや自家用車が頻繁に通行するため、歩行者の通行が困難。時間帯によっては、高校生の自転車通行も多い。)</li> <li>○歩行者(バギー、高齢者含む)の通行しやすい町づくり。</li> </ul>
時代にあった教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎子どもたちの個性を生かす教育が大切。新しい共育。</li> <li>◎教科書を捨てる。「生きる力」とは、子どもの学ぶ力を伸ばす。多様な学び。</li> <li>◎「生きる力」とは、自分で考えて行動する力。</li> <li>◎課題を成就できる成育環境を保持することが必要。</li> <li>◎ビジョンをもった教育とそのため対話を重ねること。</li> <li>◎拙速な GIGA スクール化をしない。</li> <li>○現代の子どもたちの体力低下が課題。(→「水泳」の授業時間の減少、ゲームなど室内での遊びが中心)</li> <li>○オンライン授業に対応できる力をつけながら、義務教育で学ぶ内容の一歩先を学べると、好奇心から学習意欲の向上が図れるのではないかと。(ex. 英会話、プログラミング、ディベート(討論)・ディスカッション(議論)、性教育、DIY、家事、農業講座など)</li> </ul>
価値観のギャップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校で他地域に出た際、考え方にカルチャーショックを受けていた。小・中学校で自主的に活動していたことが受け入れられなかったらしい。</li> <li>○これからの子どもたちはあらゆる多様化の中を生きていく必要があり、その中で自己肯定できる子どもになるよう、生きる力が必要だと思う。インクルーシブ教育の推進、障がいがある子、色々問題を抱える子と一緒に育つ等により、多様な価値観を持つ子どもになれるのではないかと。</li> </ul>
既存施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎県内図書館の連携。</li> <li>◎交流のための空き教室の活用。(子ども、高齢者、多様な世代の交流)</li> <li>◎参画・体験しやすい学習環境(学び場づくり)の構築。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍前後で価値観が変化している。テレワークが進み、通勤が必要でなくなると、都会ではなく、程良い近郊都市に住みたいと思う人は多いのではないかと。</li> <li>○それ以前に、今の若い人は「結婚したい」「結婚して子どもを産みたい」と思っているのだろうか。</li> </ul>

《テーマ》 産業・経済

【課題①】 多様な消費者ニーズに応えられる地域経済の活性化のために

→本町は、町外への通勤・通学者が多く、居住者のうち町内での従業率は2割程度で、町内における就業の場が少ないことがうかがえます。駅周辺の商店街も活気が衰退するなか、にぎわいある商業振興をはじめとする地域経済の活性化には、どのような取組みや考え方が必要でしょうか。

【課題②】 自然豊かな町の特徴である農地や里山を守るために

→本町は、東京近郊でありながら農漁村の風景が残り、自然が豊かであることを魅力としています。また、特産品である柑橘類やオリーブなどの栽培に力を入れ、新たな特産品の開発、普及に進めています。この農地や里山といった町の魅力を維持するためには、どのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
新たな企業の誘致・ 既存企業への支援	◎二宮オーガニックショップを。 ◎小中一貫校整備後の施設、設備の活用。 ◎空き家、空き店舗を活用した町なか企業の誘致とプロデューサーの育成。 ○駅前周辺の交通を整理した上で、コンビニやチェーンコーヒーショップ等を誘致し、人が集まりやすい環境を整備。 ○町全体がシェアオフィスとして使えるような仕組みをつくり、会社を誘致する。(Wi-Fi 環境整備) ○シャッター店舗が多く、閑散とした印象である。数年前にあった開業支援費(200万円補助)のような制度を使って開店してもらうことはできないか。 ○SOHO住宅への補助(空き家活用)
就業環境の拡大	◎雇用機会の拡大、働き場の創設。(高校生、主婦) ○高齢者の働く場を増やす。(70歳以上の人だけが働ける事業所など) ○子連れでも働くことのできる環境をつくる。
商店街活性化の仕組み	◎官民コラボによる新生活様式と新規地域事業の創生。 ◎店舗サイドは、コミュニケーションをデザインし続ける覚悟。お客サイドは町を愛する気持ちを持ち続ける。 ◎大小さまざまな地域循環の輪をつくる。シェアリングエコノミー「地産地消」。 ◎町の中でお金が循環する仕組みが必要。内需拡大(町なか消費) ◎一店逸品(匠の味・技)による魅力の向上。 ○地域通貨を活用し、地域の人材発掘に活用。町内のみで使えるポイント(通貨)をより発展させる。 ○町内のお店が運用するSNSは毎日更新する。(フェイスブック、インスタ、ツイッターなど)
町独自の買い物サービスの確立	◎町間店舗、デリバリーサービスの実施(子育て世代、高齢者支援) ○町内の商店で協力しあい、店舗に行かずとも買い物ができる仕組みをつくる。(ex.ネットを活用し、町内に点在する商店が一つの大きなお店として機能する仕組みなど) ○百合が丘や富士見が丘、緑が丘の高低差のある地域の方は買い物が辛いという話を聞く。町の商店で仕入れ、それを巡回販売車で販売するようなモデルをつくる。 ○地域づくりの会社に介入してもらい、今後を検討する。

吾妻山の森林整備と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○山に食べ物が無くなると、住宅地にサルやイノシシが出現する。森林を整備し、地面に光を当てることで、山を生き返らせる。</li> <li>◎観光ではなく、アクティビティの場としての活用。</li> <li>◎暮らし方と畑・里山再生、維持のカップリング。</li> </ul>
特産品の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎流通・消費までを考えた、トータル的なファームプロジェクトの実現。(学生の生産物も加える)</li> <li>◎特産品栽培への支援(ex.農地の貸出し)</li> <li>○オリーブ栽培を主産業とするまでには、コストと時間を要する。また、オリーブの木は堅く、民芸品の製作等は難しい。</li> <li>○それに対し、落花生は二宮で150年の歴史があり、栽培も容易で、収益性も高い。加工に手間はかかるが、産業としては大きな強みである。</li> </ul>
環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎規制と支援の両立。ルールづくりとサポートをセットしたまちづくり。</li> <li>◎次世代への情報発信。</li> <li>◎体験型農業の起業。NPO 等の協力による、幅広い世代への環境・農業体験プログラムの提供。</li> <li>○小中学生の授業の一環、または部活を通して、定期的なゴミ拾い活動を行う。(次世代を担う子どもたちに、小さい頃から意識付けを行うことは重要)</li> <li>○農地や里山の整備、海のゴミ拾いなどを手伝った際に町内で使えるポイント(通貨)がもらえる。</li> </ul>
低炭素環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガソリン車の通行を制限し、電気自動車や水素自動車のみを許可する。</li> <li>○主要な道路は全て地下道とする。</li> <li>○無料の電動自転車の設置。</li> <li>○人力車、リヤカー等を活用した人力タクシーによる送迎。</li> </ul>
町の魅力を知る・知らせる取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ハッシュタグを活用した情報発信。(個人ではなく、みんなで協力して情報を発信)</li> <li>◎町のあちこちでつまみ食い。「エディブルタウンにのみや」</li> <li>◎町民向けのプロトタイピング。町民が関りを持てる仕組み。</li> <li>◎条例の整備と情報の公開。</li> <li>○小学校や中学校から町のことを学ぶ機会をつくる。</li> <li>○年齢の節目ごとに、二宮を知る冊子を送る。</li> <li>○町内を巡るバスツアーを定期的に行う。</li> </ul>

## 《テーマ》 町の目指す姿

→本町の「強み」や「弱み」を踏まえ、10年後の町の目指す姿をお考えください。

### 《強み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他県からも多くの人が集まる吾妻山は大きな宝物である。</li> <li>○豊かな自然と温暖な気候。</li> <li>○少しずつ新しいことを取り入れながら、自然を維持している環境づくりに取り組む姿勢。</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○犯罪が少ない。</li> <li>○穏やか、治安がよい。</li> </ul>
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンパクトにまとまった町であり、町内の移動が楽。</li> <li>○都心へのアクセスも良く、小さな町にしてはスーパーも充実しているなど、住みやすい町。</li> </ul>
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつがある町。</li> <li>○優しい人が多く、人のつながりが強い。</li> <li>○新しい人を受入れる優しさが、他の地域より強い。(移住者の声)</li> </ul>

### 《弱み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○芸術や文化に携わる人が多い中、図書館以外の本屋がほぼない。</li> <li>○なんとなく立ち寄りがたい店の雰囲気。</li> <li>○買い物する場所が駅周辺に集中している。</li> </ul>
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町内を移動するための公共交通が乏しい。</li> </ul>
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人のつながりが強い場合、若い人が自由に動きづらい状況も見られる。</li> <li>○活動している人がばらばらで、全体的なまとまりが希薄。</li> </ul>

### 《町の将来像》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
さまざまな世代の暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎コミュニティで支える、子どもたちにやさしく、子育て世代が住みやすい町</li> <li>◎人にやさしい町</li> <li>◎どの世代でも過ごしやすい公園(居場所)づくり →現在は世代ごとに過ごせる場が分かれている。特に小中学生がゆっくり過ごす場所がなく、世代の偏りがある。ぜひ、乳児から高齢者まで、ゆっくり過ごせる環境づくりをお願いしたい。</li> </ul>
コンパクトな町の利点を活かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎しなやかな町</li> <li>◎弱小自治体の皮をかぶったアジャイル(=柔軟で迅速)な町</li> <li>◎自分たちで考え、決めることのできる自分たちの町</li> <li>◎コンパクトな集落</li> </ul>
豊かな将来の実感	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎幸福度の高い町</li> <li>◎自然と調和した個人の豊かさを実感できる町</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○“未来は明るい”と信じさせてもらえる町</li> <li>○都心とは異なる豊かさを育む町</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎安全・安心な町</li> <li>○安心、安全に暮らせるみんなにやさしい町</li> </ul>
自然を活かした暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎山水郷@にのみや</li> <li>◎海・川・丘陵を回遊できる遊学文化を感じる町</li> <li>○食べ物、教育、医療、介護、エネルギーが自給自足できる町</li> <li>○里山、海の価値を最大限に生かした地産地消の循環モデルを確立し、町民が健康で幸せに暮らせる町へ <ul style="list-style-type: none"> <li>→農業、漁業、林業のワークシェアリング(ボランティアなど)の体制をつくることで、産業の活性化、就業機会が増加する可能性がある。</li> </ul> </li> </ul>